

第 11 回 鈴鹿病態薬学研究会

日時：平成 29 年 7 月 28 日（金） 17 時より

会場：鈴鹿医療科学大学薬学部（白子キャンパス） 1 号館 1303 室

◆ 演題

「細胞の生と死をスイッチする容積感受性アニオンチャンネル」

－ その活性化メカニズムと細胞内 ATP の役割 －

◆ 講師

赤塚 結子 先生（鈴鹿医療科学大学 薬学部 准教授）

◆ 講演概要

細胞壁を持たない動物細胞の容積は、細胞外及び細胞内の浸透圧の影響を受けて容易に変化するが、動物細胞には増大または減少したその体積を元に戻し、常に一定に保つ能力があり、これは生命を維持する上で必要不可欠な機能である。低浸透圧刺激を受けて一旦膨張した細胞容積は、細胞内の余分な水と溶質を細胞外に排出することによって元に戻る。この過程は調節性容積減少 (RVD) と呼ばれ、この時に排出される陰イオン（アニオン）の通り道である容積感受性外向整流性アニオンチャンネル (VSOR) の働きが、RVD の過程に必須である。しかし、VSOR を含め、RVD を可能にする分子基盤には不明な点が多い。演者はこれまで生理学研究所との共同研究によって、VSOR 調節タンパク質を同定し、VSOR を取り巻く分子協関の一部を明らかにしてきた。本講演では、これまでの演者らの成績と共に最近同定された VSOR に関わる新しい分子についてご紹介する。

主催：鈴鹿病態薬学研究会

事務局(問い合わせ先)： 鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸

TEL 059-340-0606

e-mail nakayamh@suzuka-u.ac.jp

第11回 鈴鹿病態薬学研究会

「細胞の生と死をスイッチする容積感受性アニオンチャンネル」
- その活性化メカニズムと細胞内ATPの役割 -

講師： 赤塚 結子 先生

鈴鹿医療科学大学・薬学部 准教授

日時：平成29年7月28日(金) 17時より

会場：鈴鹿医療科学大学薬学部(白子キャンパス) 1号館 1303号室

本講演会では、細胞の生死に関わる細胞容積調節機構(イオンチャンネル機構)の分子基盤について、赤塚先生に分かり易く解説して頂きます。奮ってご参加下さい。

主催：鈴鹿病態薬学研究会

事務局(問い合わせ先)：鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸

TEL 059-340-0606 e-mail nakayamh@suzuka-u.ac.jp